

## 3月定例市議会を終えて

### 社会の動き

昨年一月、国内初のコロナ感染者発生から1年3ヶ月が経過しました。首都圏での非常事態宣言は3月21日に解除されたものの依然として先行きは不透明なままで、収束どころか第4波の到来も心配されています。市民の暮らしや国内経済にも大きな影響が出ており、オリンピック・パラリンピックの方向性も未だ見えません。ワクチン接種も当初の予想ペースより遅れ、医療関係者への先行接種完了の見込みも立っていません。国内外で新たな変異ウイルスの事例発生が報告され、不安は強まっています。市民生活では新しい生活様式が定着しつつありますが、田舎が戻ってくるために、出来る範囲に取り組みなければならぬと思っております。

こうした中、政治状況も混乱を極めています。政治家と企業の癒着や政治家の差別発言・無責任発言は枚挙のいとまがありません。すでに記憶をなくす政治家や経済界代表者が多い日本の将来はどのようなものか。

## 福山でのコロナ

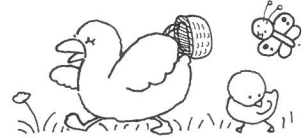


3月末時点での福山での感染者は約60人で、これまでの死亡は21人となっております。この間、複数のクラスターの発生や、児童・生徒の感染もありました。

そうした中、これまで数回に亘る補正予算での対応をはじめ、市で制定したガイドラインの家庭編と職場編や、産業界での対策講習会の「E-ラーニング」の徹底にも取り組んでまいりました。3月議会においてもワクチン接種等のコロナへの対応や、市民生活の安心・安全の確立に向けての議論や、新年度予算についての議論を行いました。

## 3月議会冒頭の市長説明より

「新年度予算は安心と希望のための挑戦予算と名付けられている。その3つの柱は、新型コロナウイルス感染症対策の強化都市魅力の創造、人口減少対策の強化です。その具体は、コロナ時代の新しい都市づくりを進めていく『新たななつつの挑戦』を始めるための指針となる『福山みらい創造ビジョン』の策定や、市内施設を主会場とする集団接種と市内医療機関での個別接種の併用による円滑なワクチン接種、福山駅周辺の再生、防災・減災の推進、福山ネオポルの強化等です。支援を求める小さな声にも耳を傾け、お互いを思いやり、助け合い、市民が心を一つにして共に困難な状況を乗り越え、希望の明日へとつなげていく。」



## 3・11から10年

今年で東日本大震災から10年となります。3月11日の午後2時40分過ぎは、ちょうど私が予算特別委員会質疑をしておりました。質疑を中断して全議員と理事者で一分間の黙祷を行いました。震災の風化が言われ、自然災害への備えが十分でないとの指摘があります。今なお行方不明者、自分の家に帰れず仮設住宅や避難先での生活を余儀なくされている実態を再度確認し、私たちがしなければならぬ取り組みを明確にしなければならぬと思っております。

## 予算特別委員会の賛成討論(西本発言関係)

〇子ども家庭総合支援拠点事業については、支援が必要が子どもや家庭の問題解決に向け、福山ネオポルをはじめ福祉部門や教育部門、東部子ども家庭センター等関係機関と十分連携して取り組むこと。  
〇5月に再編予定のえほんの国は、床面積が縮小され福山市の自主運営となる。魅力あるえほんの国になるよう創意工夫すること。  
〇通級指導教室については、今年度1年生は学級が開設されず通常学級のみでの学びとなった。2年生からは通級教室を希望する児童もいる。個々にあった適切な指導体制になるよう取り組むこと。

## 文教経済常任委員会での議論

〇特定業者との連携に疑問について今年度新しい取り組みとして期間限定で、高校を卒業する市内在住3年生の希望者へスーツ購入のためのクーポン券発行をするもので、スーツ等2万円5千円以上購入した場合、市と特定業者が1万円ずつ計2万円補助する。なぜ特定の1社だけにと当然疑問がわきます。市内には他の業者、個人経営者も様々です。委員会でも問題点を提起しました。

〇学校再編は地元合意が前提に、市内では幾つかの地域で学校の再編が取り組まれています。私たちの会派では、まず地元住民との合意が優先としていますが、十分な合意がまま進んでいる地域があります。学校は地域活動の拠点です。充分な話し合いを求めました。

## 予算特別委員会での質疑

〇ITC教育の取り組みでの健康問題では、視力低下や電磁波の影響等子どもたちの健康を心配する声もあります。IT教育の推進にあたっては、児童生徒・教職員の健康管理に十分配慮する事を求めました。また、スマホ依存、有害サイト、ネットによるいじめ等の課題もあり、IT教育におけるリスク等についての研究も引き続き検討することを要望しました。



〇児童生徒の家庭の経済格差からくる学びの格差については、家庭で子どもを学習をバックアップできる体制にある子どもと、バックアップできない子どもでは学力等、その格差が大きくなるのが考えられます。学びの格差の奥態を深く分析し、より効果的な指導となるよう取り組みを求めました。